Milagros de Nuestra Señora by Gonzalo de Berceo

Translated by OTA Tsuyomasa

Abstruct

Gonzalo de Berceo was a Castilian poet born in the last years of the twelfth century in the Riojan village of Berceo, close to the major Benedictine monastery of San Millán de la Cogolla. He is celebrated for his poems on religious subjects, written in style of verse which has been called mester de clerecía (scholars' art) as compared with mester de juglaría (minstrels' work). Gonzalo is recorded as being a deacon in his home parish in the early 1220s, and as priest from 1237 on.

Milagros de Nuestra Señora (Miracles of our Lady), Berceo's most studied work is a collection of twenty-five miracles of the Virgin Mary. The form of these miracle tales written in the erudite form of cuaderna vía (four-fold way) is simple as is Berceo's style in general.

This time translation is made from Tale 23 to 24.

聖母の奇跡Ⅴ

ゴンサロ・デ・ベルセオ作
太 田 強 正　訳

ゴンサロ・デ・ベルセオ（Gonzalo de Berceo）はスペイン北部のラ・リオハ（La Rioja）地方のベルセオ（Berceo）村で 1200 年の数年前に生まれたようである。何年に死亡したかは不明で、スペインで現在名前の分る最古の詩人である。

メステル・デ・クレレシーア（mester de clerecía）は中世スペインの主に聖職者による教養階級の文学の流派を意味し、文字の読み書きのできない吟遊詩人（juglares）によるメステル・デ・フグラリーア（mester de juglaría）と対をなすものである。ベルセオは前者の代表的存在で、この「聖母の奇跡」はその代表作である。これはクアデルナ・ビーア（cuaderna vía）と呼ばれる 1 行 14 音節同音韻 4 行詩で書かれた宗教詩で 25 の奇跡物語が記されている。

今回は第 23 話と第 24 話を掲載する。

訳は言葉が違うので韻を踏ませることはできなかったが各行ごとに付けた。そのため日本語として通るように原文にない接続詞などを補わなければならない箇所があった。

本稿は Edición de Juan Carlos Bayo e Ian Michael に基づいているが、訳

に当たっては現代スペイン語訳の他、英語、イタリア語訳を参照した。また部分訳ではあるが日本語訳も参考にした。

23　支払われた借金

625　皆さん、ちょっと待っていただけるなら
あなた方に素晴らしい奇跡を読んであげましょう
読み終わったら大喜びすることでしょう
並の食事よりはありがたいと思うはずです

626　コンスタンティーヌスから名付けられた町に
—というのはコンスタンティーヌスがかつてそこに人を住まわせたからですが、
彼は聖ペトロにローマを住まいとしてあげた人です—
かなりの財産を持った善人がいました

627　彼はとても心の広い人でした
名声を上げるために非常な散財をしました
自分の財産を使い、それをただで与えていました
彼に請う人には、ノーと言いませんでした

628　名声を上げるため、声望を高めるために
持てるだけの物を惜しみなくバラまいていました
自分の物が減っても、さらに名を高めるために
喜んで隣人から借金をしていました

629　自分の物を気前よく無分別にバラまいていました
財産は減りましたが、気の良さはそうではありませんでした
いつも彼の家には大勢の人がいました
ある時は 20 人、またある時は 30 人、時々は 100 人

630　大きな出費、節度のない散財をしていたので
お金が尽きて困窮しました
借金もできず、高利貸しも見つかりませんでした
他人の間にも、身内の間にも

631　皆は彼が貧しくなったことを知りました
借金もできず、信用買いもできませんでした
その善人は非常に屈辱的状態に陥り
過去はすべて失われたものと思っていました

632　その男は非常な嘆きをもって祭壇の前に立ち
口の中で祈りを唱えました
《主よ、あなたは 1 人の神で三つの等しいペルソナをもっておいでです
憐れみをもって私を見放さないでください

633　主よ、今まであなたは私を支えてくれました
すでに私は自分の罪のため破産に追い込まれました
持っていた信頼をすべて失いました
生まれてこなかったほうがずっとましでした

634　主よ、何とかして私に助言をください
あなたの恩寵をどうにかして私に送ってください
そのような事はあなたにとってはたやすい事です
私は海を泳ぎ切りましたが、岸で死ぬのでしょうか》

635　祈っていると、神は彼を助けようとしました
彼は考えてみるべき良い助言を得ました
それは彼の頭から出たのではなく、彼を導こうとしたのは
全世界を統べ給うお方でした

636　その町に大変金持ちのユダヤ人がいました
近くには彼より金持ちはいませんでした
男は―心の中で―彼の所へ行って
お願いして金を借りようと考えました

637　すぐにそのユダヤ人のところへ行くと、快く迎えてくれました
ユダヤ人は彼にどんな状態なのか、どうして来たのか尋ねました
というのは他の機会に彼を知っていて
彼のゴタゴタをすべてよく聞いていたからです

638　その男はユダヤ人に自分の行いを語りました
《あなた様は私のゴタゴタを良くご存知だと思います
あなたから借金できたらと大きな希望を抱いています
というのもこんな事になるとは思っていなかったからです

639　神が私が富を持つことを望んだ時には

—それは私の隣人たちが知っている事ですが—私は皆を助けていました
私の家の門は開けておきました
神が与えてくれる物は何でも皆と分かち合っていました

640　できるならそれを続けて行きたいと思っています
しかし私はすっかり落ちぶれて、財産がありません
しかしもしあなたの分を私にお貸しいただけるなら
期日にはきっとお返ししようと思います》

641　そのユダヤ人は言いました、《喜んでそうしましょう
私の財産から望むだけお貸ししましょう
しかししっかりした保証人を立てて下さい
そうでないと騙される恐れがあります》

642　キリスト教徒の男は彼にきっぱり言いました、
《あなた様には他の保証人を立てる事ができません
私の神であり、主(しゅ)であるキリストです
聖母の御子であり、世の救い主であるお方です》

643　ユダヤ人は彼に言いました、《私は信じられないのです
マリアから生まれたとあなたが言うその人が
神であることが、しかし彼は分別がありまともな人で、
真の預言者でした、私は他は信じないでしょう

644　もしその人があなたを信用するなら、私はその人の愛に免じて

他に保証人がなくともあなたに私の分をお貸ししましょう
しかし私には下らない道理に合わない事に思えます
そしてあなたは私にはほどんとふざけた人に思えます

645　私はどのようにして神がそんな事ができるのか知りません
なぜなら私の信じるところによればこの世に神はいないからです
神があなたを助けに来ると期待しないでください
ですから他の方策を取るのが良いのでは》

646　そのキリスト教徒は答えて、ユダヤ人に言いました、
《あなたが私のことを狂人だとか馬鹿だとか思うのは分かります
私は方策もなくさまよい歩いてるのです
しかし私の信じるところによれば、この事の背後にあなたは他の方を見るでしょう》

647　ユダヤ人は彼に言いました、《もしあなたがその事を私に見せてくれるなら
あなたが望むだけ貸してあげましょう
しかしウソなら、あなたが私から得る物で
悪党にも吟遊詩人にも支払いはできませんよ》

648　その男は不信心者に言いました、
《あなたが私と一緒に私の礼拝堂に来くれさえすれば
マリアとその御子を見せてあげましょう》
そのユダヤ人は彼に言いました、《喜んでそうしましょう》

649　その男はユダヤ人を神とその案内で教会へ連れて行き
その像、聖マリアの像を見せました
聖母はその優しいお供である御子を腕に抱いていました
ユダヤ人街の人々は恥じ入りました

650　その善人はユダヤ人地区の人々に言いました
《これが私たちの主人で、これが私たちの貴婦人です
この方達に助けを求める人は常に幸せです
この方達を信じない人は火と炎を食らうでしょう》

651　彼は親分であるユダヤ人に言いました
彼にお金を貸してくれると言った人です
《この方達が私の主人で、私は召使いです
この方達に保証人になってもらうほか私にはできません》

652　ユダヤ人は彼に言いました、《彼らを認めましょう
他の保証人を私は要求しません
しかしもしあなたが違えるようなことがあったら、私は彼らを責めますよ
そしてあなたがどんな誠実さを持っているか彼らに知らせることになるでしょう》

653　そのキリスト教徒は不信心者にその保証人を与えました
御母と御子を彼に手渡したのです
返済についてはっきりした期限の取り決めをして
その男はお金を受け取りました

654　その男が金を受け取ると
とても喜び、助かったと思いました
聖母のもとへ敬虔な気持ちで戻り
神に心から感謝を捧げに行きました

655　彼は神の前にひざまずき
非常に謙虚に目を上げました、
《主よ―と彼は言いました―あなたは私に恵みと慈悲を示し、
私を今日非常な貧しさから救い出してくれました

656　主よ、私は昨日貧しく借金がありました
今日はあなたの恩寵により富んで豊かです
あなたを保証人にしましたが、喜んでそうした訳ではありません
あなたが責められるような事になれば、私には大きな痛手です

657　主よ、私は私の言葉を違えるつもりはありません
あなたの前で言った事はきっと果たします
しかしもし期日に来れない場合は
全額をあなたに預けます

658　主よ、ひょっとして私が遠くにいて
期日に来れない時は
保証人になってくれたあなたにお金を預けます
そしてあなたがどうにかして彼に払ってください

659　天国の女王、小麦のパン[95]の母君

その方によって不倶戴天の敵が辱められました
あなたは私の補償人であり、その事をあなたに申し上げます
その事はあなたが内に持っているお方に申しました》

660　その男が祈りを終え
不信心者と取り決めをし
仕事を片付け、準備をすべて整えると
外国へ、遠い所へ行きました

661　彼は外国、フランデスとフランスへ行きました
大きな商いで大もうけをしました
神と聖母のおかげで富が増えました
財産と賞賛がいや増したのです

662　彼が携わっていた大仕事のため
またまったく離れた土地から来ていたため
取り決めた期日に行くことができませんでした
重大な過ちでそれを忘れていたのです

663　支払いの日が近づいていました
一日でも延ばす事はできませんでした
その男は契約を思い出し
自分の手で自殺しようと思いました

664　彼は言いました、《私は約束を違えました、哀れな罪人(つみびと)です
どうしても保証人をお助けできません

私のために私の購い主が責めを受けるでしょう
そしてその母であるロカマドゥール[96]の聖母も

665　主よ、あなたはお分りです、本当の事をご存じです
どんなに私が心の内で苦しんでいるのか
主よ、お願いですから私をお助け下さい
あなたの偉大な母君が責めを受けないように》

666　全財産を袋に入れてしばり
穴の開いた小銭ももらしませんでした
それを背負って島に持って行き
浅瀬のない所の波間に放り投げました

667　非常な信仰を持ってイエス・キリストのもとに戻り
ひどく泣きながら祈りを捧げました
《主よ―と彼は言いました―あなたはこの訳をすべてご存じです
私たちの取決めの保証人ですから

668　主よ、私が金貸しに支払いができないので
というのは私たちの間にはとても長く険しい道が横たわっている
からなのですが
主よ、あなたは真の救い主と言われるお方です
あなたがこのお金を明日彼の倉に置いて下さい

669　聖母様、私の聖マリア様
あなたはしっかりとこの取り決めの間に入ってくれました

よく見ていただくと、これは私のと言うよりあなたの取り決めです
私はあなたにお金を差し上げます、あなたがその案内人です

670　あなたとあなたの御子、ご両人とも取り決めにからみました
ご両人とも不信心者に対する保証人です
あなた方の好意で彼が明日支払いを受けますように
悪い僕(しもべ)のために良き主(しゅ)が責めを受けないために

671　私はあなたにお金を託します、私は支払ったことにします
私は責任を果たしたと思います、あなたにお金を渡したのですから
母上、あなたにお願いします、あなたから御子に頼んで下さい
ともかく不信心者が明日お金を受け取るようにと》

672　聖母とその愛する御子は喜びました
次の日の朝太陽が昇るとき
借財を積んだ箱が
不信心者の門口に流れ着いたのです

673　そのユダヤ人が住んでいた町は
その男にお金を貸した人物のことですが
私たちが読んでいるように、海辺にありました
波が時々壁に打ち寄せていました

674　その朝一時課[97]の頃に

ユダヤ人のところの者たちが、無為の徒ですが
海岸に遊びに出ると
浜辺に箱が浮いているのを見ました

675　軽薄な若者たちがそれを取りに行きました
彼らは何回か試してみましたがだめでした
それは縮んで、手をすり抜けていきました
これを多くの人が、ユダヤ人もキリスト教徒も見ていました

676　騒ぎを聞きつけて物知りのキリスト教徒たちがやって来ました
引っかけ鉤とか鉤竿とか救命ボートとかを持って
全部何の役にもたちませんでした、彼らは詐欺師だったのですか
ら
人がこれ以上の無駄な汗を流した事はありませんでした

677　偶然本当の持ち主が通りかかりました
すぐに箱は彼の手に渡り
彼はそれを自分の家へ、倉の中に運び入れ
金銀で山を築きました

678　不信心者が財産を取戻したとき
それが入れられた容器を丹念に調べ
とても安心してそれをベッドの下に入れました
皆が不信心者を羨みました

679　裏切り者で、根が貪欲な不信心者は

不幸にも他の事を考えることができませんでした
彼は自分の運が素晴らしいものだと思い
その（返済した）男に《うそつきの口》と名前をつけました

680　悪い性格のユダヤ人たちはその金貸しを非難しました
彼はその財産を気違いじみた事のために失ったのです
誰もこんな馬鹿げた貸付などしたことがありませんでした
物言わぬ像を保証人にしたのですから

681　私たちは欲深い高利貸しのユダヤ人の事は置いておきましょう
神が彼をそのままにして自分の倉の見張りをさせておいてくださるように
私たちは今度は商人の事を話しましょう
箱がどこに流れ着いたのか彼に知らせましょう

682　ビザンチウムの住人は大きな心痛を抱えて生きていました
期限までにユダヤ人に支払うことができなかったからです
その善人は明るい顔ができませんでした
周りの者たちはどうしても彼を元気づけることができませんでした

683　長いことかけて彼は大金を稼ぎました
商人の法に則って売り買いしたのです
時が来て彼はその道を離れ
他の仲間たちと故郷に帰りました

684　彼はコンスタンチノーブルに行きました、それがうわさになりました
ドン・バレリオという男が来たと
ユダヤ人は喜びました、自分は助かったと思いました
ユダヤ人は信用貸しした財産を彼が倍にするだろうと思いました

685　すぐにユダヤ人の家へ行きました、どこに住んでいるのか知っていたからです
ユダヤ人は彼が返済しないので非難しました
その善人は彼がとんでもないことを求めていると言いました
というのはユダヤ人が要求しているものは何も借りていなかったからです

686　ユダヤ人は彼に言いました、《私は正しい
あなたに要求している事に関しては私にはちゃんとした証人がいるのですから
もしあなたが払ったと言うのなら、いつどこでか言ってみなさい
というのは結局のところ私が損したことになると思うからです

687　私は大うそつきのあなたのキリストを信じたのです
そしてあまりましとは言えない彼の母のことも
私は保証人になった人に私の権利を主張します
あなたを信じた人は同じかもっとひどい物を受け取ることになるでしょう》

688　そのキリスト教徒は彼に言いました、《あなたはとんでもない事

を言っている
良き御母、良き御子に対して、あなたは敬意を払わない
この世でこのような女性がベールをまとったことはないし
このような奇知に富んだことを言う子が生まれたこともありません

689　あなたが貸してくれた財産は、私は確信しています
私にはちゃんとした証人がいますし、ちゃんと払いました
それでも違うと言うのなら、もっと良い取引きをしましょう
あなたが取った保証人がそれを語るでしょう》

690　不信心者は陽気になりました、自分は守られていると思ったのです
彼は言いました、《私は裁きを受けます、あなたは反論できないでしょう》
彼は感覚がない像が
自分の言葉が打ち負かされるような事はいわないだろうと考えました

691　この二人の敵対者は教会へ行きました
どちらがその金を持っているのか明らかにするために
彼らの後にも前にも多くの人が一緒に行きました
木の像が話すことができるのか見に

692　彼らは冠を戴いた御子の前で立ち止まりました
御子は母君に優しく抱かれていました

その男は言いました、《完全なる主よ、
このもめ事を裁いて下さい、私は不当に責められているのですから

693　私がどうしたかはあなたが知っています
彼が金を受け取ったかどうかは、主よ、あなたが知っています
主よ、罪人(つみびと)の私に御恵みをください
彼が受け取ったかどうか言って下さい、あなたが保証人になったのですから》

694　十字架像が口をきいて、彼に適切な命令を伝えました
《期限に支払いを受けたのだから、あなたは嘘をついています
しっかり数えられた金の入った籠は
あなた自身のベッドの下にしまってあります》

695　人々は皆申し合わせたように動きました
彼の家に行って、至極当然のことをしました
ベッドの下にある籠を見つけたのです
悪い不信心者は戸惑い、困った状態になりました

696　好むと好まざるに関わらず、ユダヤ人は悲しみ恐れました
もめ事がすべて明るみに出たのです
ユダヤ人はすぐに仲間と共に改宗し
善意のうちに、悪しき時から解放されて死にました

697　このことが起こった日はいつも

像が、その素晴らしい徳が口を開いた日ですが
人々はキリエ[98]と聖歌で盛大な祭りを祝っていました
神と聖母に対する大いなる喜びをもって

698　町の皆が、貧者も金持ちも
楽器で大いなる喜びを表していました
宴会を用意し、貧者に振る舞っていました
肉や塩漬けの、あるいは取れたばかりの魚を

699　辛口の赤ワインの瓶と
見事に調理された料理が行き交い
それを取ろうとする人は取り損なうことはありませんでした
この事で嘲笑を受けることはありませんでした

700　遠い異国から来た１人の裕福な助祭長が
仲間たちに混じってこのお祭り騒ぎの中にいました
彼は大掛かりな輪舞や大行列を見ました
それは聞いたことも見たこともない類いのものでした

701　彼はこのような祭りがいかにして始まったのか尋ねました
それが大掛かりの物で気高く祝われていたからです
１人のキリスト教徒が深い言われを彼に説明しました
そしてこれが証明された真実だと知ったのです

702　助祭長はこれを喜び、素晴らしいことだと思いました
彼は言いました、《神と聖母が讃えられますように》[99]

彼の模範的な手はこれを書きとめました
神が彼に天国と心地よい安息を与えますように（アーメン）

24　奪われた教会

703　さらに別の奇跡をあなた方にお話ししましょう
それは聖母が起こした奇跡で、彼女のことを忘れてはいけません
彼女は海がそこから湧き出る永遠の泉です
それはどんな時でも止まることがありません

704　私はしっかり信じます、この奇跡のことを聞く人が
彼女を覆うベールを取ろうとしたり
彼女の持っている物を力ずくで奪おうとしたりしないと
この事は生きている限り覚えておくべきです

705　幸運な王の時代に
名をドン・フェッランド[100]と言い、エストレマドゥーラの君主だったのですが
彼はアルフォンソ王の孫で、非常に節度のある人間でした
この時代に非常に大きな規模のこの奇跡が起こりました

706　泥棒たちがレオンの地方から移動しました
その地方の司教区から移動したのです
彼らは大混乱を起してカスティリャにやって来ました
悪魔が彼らを導きました、悪い導き手です

707　1人は俗人で、悪い時期に生まれました
もう1人は司教から叙階された司祭でした
彼らはセイーノス[101]にやって来ました、悪魔が彼らを導きました
それはユダに悪い事をさせた悪魔です

708　町の外の平原の
あまり遠くないところに教会が建っていました
教会の近くには人の住んでいる修道院がありました
そこには黒いベールをかぶった修道女が住んでいました

709　この二人泥棒は様子を窺っていました
夜になると各々鍬を持って動きだしました
ドアをはずし隅々を物色しました
彼らはそれが男のいない修道院だということを良く知っていました

710　修道院を守っていたのは貧しい修道女でした
わずかな物しかなく、着る物もほどんど持っていませんでした
しかしとてもきれいな布を一枚持っていました
修道女には品位のある衣装でした

711　修道院にある物はすべて持ち去られました
袋に入れられて、ぞんざいに運び去られたのです
俗人の男の方はかなり思慮のない人物でした
学問のある方の司祭はさらにひどいものでした

712　修道院の物がすべて袋に詰められたとき
—換金してもすべてわずかな価値しかなかったでしょう—
その悪魔の卑劣な僕(しもべ)たちは考えました
教会には貴重なものがしまってあるのではないかと

713　鍬でかんぬきが引き抜かれ
扉がはずされ、教会が略奪されました
そこにあった物は何も残りませんでした
彼らはわずかな利益のために大変な冒瀆を働いたのです

714　彼らは祭壇を覆っている布と
それで祈りを唱えていた本と祭服を取り払いました
その貴重な場所がひどく破壊されました
そこは罪人(つみびと)たちが創造主に祈りを捧げていた所でした

715　この大きな愚行をし終え
二人が顔を上に向けると
聖母像が見えました
かわいい赤ん坊の御子を腕に抱いていました

716　聖母は非常に栄えある冠をかぶって
上から白くとても薄いベールを
左右に垂らしていました
彼らはそれを取ろうとしましたが何も取れませんでした

717　司祭の方はあわてて、さらに大胆になりました

教会の事にはより通じていたからです
その不幸な司祭はベールをひったくりに行きました
というのはそうする事で自分たちが事を終わらせる事ができると思ったからです

718　聖母は侮辱されたと思いました
こんなにも卑劣に自分からはぎ取ったわけですから
彼女はこのようなお務めには不満であることを示しました
人はこのように嘆きのこもったベールを見たことがありませんでした

719　不幸な男がそのベールをつかむと
握った拳に非常にぴったりくっ付いて
どんな糊ででもこれほどまでにははり付かないほどでした
金づちで打ち込んだ釘をもってしても

720　彼らは記憶を失いました、もっともな事でした
その俗人と司祭はまったく正気を失ったのです
扉の方へ行きましたが、扉は見つかりませんでした
悪のために生まれて来た者たちは迷って歩き回りました

721　自分たちが取った物を捨てることができませんでした
できるものなら喜んで置いて行きたかったのです
それを喜んで置いて行こうとしました、持ち去りたくはなかったのです
しかしどこに扉があるのか分かりませんでした

722　隅々を手探りで捜しました
ちょうど嫉妬深いシシンニオ[102]がしたように
彼は歌[103]に出てくるテオドラという女性の夫でした
彼女は教皇クレメンスによって入信したのです

723　神に見捨てられたその気の触れた不幸な者たちは
頭がおかしくなった酔っぱらいのようでした
顔を叩いたりわき腹を叩いたりしていました
とても巡礼に出るようではありませんでした

724　損害を受けた修道女は
可能になったので隠れていた所から出てきました
叫び声をあげると、すぐ助けが来ました
最も身軽な人々がすぐに駆けつけたのです

725　それから多くの人々がやって来ました
彼らが教会に入ると泥棒どもを見つけました
憤慨していたので、すぐに彼らに襲いかかり
非常に大きな杖で彼らに深手を負わせました

726　彼らは泥棒どもを棒でひどく打ち、力いっぱいの平手打ちを食らわせました
何度も蹴り、てこで何度も殴りつけました
泥棒どもは体に非常に多くの傷を負ったので
小さい傷は忘れられるほどでした

727　彼らは泥棒どもに騒ぎの次第をすべて話させました
どの土地から来たのか、何の目的で旅をしてきたのか
そしていかにして聖母が彼らを捕らえたのかを
なぜなら聖母にひどい事をしたのですから

728　夜明け前に泥棒どもはしっかり捕らえらました
日が昇ると彼らはすっかり大人しくなっていました
人々は彼らを折り紙付きの裏切者と呼びました
聖母に対してこのような大胆な事をしたのですから

729　それからミサが挙げられ、会議が招集されました
皆は彼らに悪さをしようとしました
囚われの俗人にはひどい決定をしました
彼を硬い綱で高く吊しました

730　聖なる生活を送っている敬虔な参事会員が
彼は神に熱い愛を抱いていたのですが
手に張り付いたベールを見ると
こんな裁きは聞いたことがないと言いました

731　その善人はそのずきんを取って
聖母の代わりにそのベールに口づけしようとしました
しかし神はこの良きキリスト教徒に名誉を与えようとして
すぐにその囚人の親指からベールを引きはがしました

732　それから数日して神は事を導こうとしました

その場所に司教が来たのです
人々は司祭の方を司教に見せるために連れて行きました
司教が彼を捕らえておくのかあるいは釈放するのか命じるのを確かめるために

733　人々は司祭の手をしっかり縛って連れて行きました
肩はてこでひどく打たれた状態でした
彼らは司教に夜盗の件を知らせました
神が禁じた事をいかに行ったかを

734　司祭は自らの口で告白しました
すべての行状と自分たちの狂った行いを
そしていかにして聖母からベールをはぎ取ったのかを
こんな割の合わない事をしたことはありませんでした

735　司教は彼を捕まえて、レオンに連れて行きました
泥棒を法で定められたように後ろ手に縛って
彼を見た人は皆理由を知っていました
彼らは言いました、《神がこのような狂った男に屈辱を与えるように》

736　司教は自分で事を解決できませんでした
全聖職者を会議に招集しました
彼らが指定された日に集められると
司教はその司祭を彼らに示し、その狂気の沙汰を告げました

737　司教が彼に課すべき処置を尋ねると
聖職者の誰も答えられませんでした
司教は法の解釈を良く知っていました
彼は自分の口で司祭を叱責したかったのです

738　司教は彼に言いました、《司祭よ、あなたはそんな悪い事をしたのですか
皆があなたについて言っている事を認めるのですか》
《司教様―とその司祭は言いました―私の霊的父であるお方よ
私の悪行には私は類を見ませんでした

739　私について人々があなたに言っている事は皆本当です
彼らは私の悪さについて十分の一もあなたに言っていません
司教様、お願いですから
私の良い所など見ようとせずに、あなたの善良さを見て下さい》

740　《皆さん―と司教は言いました―これが正しい判断です
この司祭は私たちの仲間ではなく、私たちの司教区の者でもありません
私たちに彼を断罪する権利はありません
彼の司教が彼を、彼の許しを、彼の罪を裁くように

741　彼はアビラの司教に委ねられるべきです
彼はそこの司祭で、その司教区のものだと言っています
他の所の司祭を裁くのは法で禁じられています
その事で後で私が召喚されるかもしれません

742　しかし私は次のように判決します、彼をむち打ちに処します
彼がこの司教区内で見つかったのなら
ただちに絞首刑にして、木に吊すこと
彼を見逃す者は破門されます》

743　彼が追放されてから誰も彼を見たものはありませんでした
司教区全域で彼を見たと証言する人はいませんでした
この新しい奇跡を人々はしっかりと記録して
他の奇跡と共に本に収めました

744　聖母様、あなたが常に褒め讃えられますように
あなたは悪人をひどく打つことを知っています
あなたは善人に賢明な人として名誉を与える事を知っています
聖寵に満ちた母であるあなたはそれ故に頼りにされます

745　あなたの修道院を侮辱しに来た悪人どもを
あなたはしっかりあなたのチャペルで捕らえました
あなたのベールに接吻しようとした善人に
本に書いてあるようにそれを脱いで与えました

746　祝福された婦人、完璧な女王
御子キリストの手で冠を授けられたお方
私たちを悪魔とその姦知から救ってください
悪魔は人の心にいつもワナをしかけます

747　御婦人、あなたは私たちを正しい生活へと導いてくれます

あなたは最後に私たちに素晴らしい完璧な終末を勝ち取ってくれます
私たちを卑劣な襲撃と悪しき転落から守って下さい
魂に最後に良い出口がありますように（アーメン）

注

95）そこから聖体（hostia）が作られる、つまりキリストのこと
96）フランスの巡礼地（Rocamadour）
97）早朝に唱える祈り
98）kirie, eleison ギリシャ語 *κύριε, ἐλέησον*「主、哀れみたまえ」の意で、新約聖書マタイ伝 20.29 などから取った祈り
99）この部分ラテン語とスペイン語の混交文、Laudetur Deus e la Virgo gloriosa
100）don Ferrando, Fernando III el Santo のこと
101）スペイン北部 Valladolid の近くにある Ceínos de Campos のこと
102）Sisinnio, ローマ時代の言い伝えで、次行の Teodora の夫で一時的に視力と聴力を失う
103）歌詞に Teodora の名が出てくる聖歌のことのようである